

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

|   |  |  |
|---|--|--|
| 1 学校教育目標  | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。   |  |
| 2 評価する領域・分野   | ◇学校経営  |  |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針・指導内容について概ね理解が得られている。</li> <li>・生徒、保護者及び地域が期待する魅力ある学校づくりに努めるとともに、本校の教育活動について効果的に情報発信する必要がある。</li> </ul>   |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善を推進する。</li> <li>・地域貢献活動を推進する。</li> <li>・教職員の働き方について見直しを進める。</li> <li>・校内で情報共有の進む体制を作り、外部への発信にも努める。</li> </ul>  |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | 企画運営委員会、各種アンケートの実施<br>管理職による各分掌長や主任、個々の教員への聴き取り調査  |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |  |
| (1) 年1回の教員相互の公開授業及び各教科の研究授業の実施  | (1) 授業に対する生徒の評価<br>授業評価アンケートや生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果  |  |
| (2) 地域貢献活動プロジェクトの立ち上げ   | (2) 生徒の主体的な参加状況  |  |
| (3) 職員の時間外労働時間の縮減   | (3) 出退勤簿の記録  |  |
| (4) HPの改善や報道機関への情報提供など広報面の充実  | (4) HPや広報された内容の充実度   |  |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に全校体制で取り組む。生徒や教員相互による授業評価等を積極的に行い、教員の授業力向上を図る。<br/>アクティブラーニングの講習の伝達等を行う。</li> <li>・地域貢献ボランティアを「ゆいまーるプロジェクト」として総括し、活動を推進する。</li> <li>・時間外勤務が月80時間以上となる職員への指導を行う。</li> <li>・学校の実践の広報活動を様々な方法を活用してより推進する。</li> </ul> | ①相互参観授業や授業の質を上げる効果的方法の共有化が実施できたか。<br>生徒アンケートによる授業の満足度が向上したか。<br>②生徒が積極的に参加したか。<br>③管理職による面談が適切にできたか。<br>④広報活動が充実できたか。  | (A) B C D<br><br>A (B) C D<br><br>(A) B C D<br>A (B) C D |
| 11 成果   | ○授業改善への取り組みは、職員の多くが公開授業や研究授業で各教科とも計画的かつ積極的に実施でき、アクティブラーニングの質の向上につながる講習もできた。生徒アンケートでは、授業に対する肯定的評価が大きく向上した。<br>・ ○「ゆいまーるプロジェクト」を軌道に乗せることができた。<br>○業務のスリム化は年間の反省等を生かして一層の改善への努力が必要である。<br>○広報活動については、HPをリニューアルした。一斉メール配信も高い評価を受けている。ただ、地域に開かれた学校としての認識があまりない。 |  |
| 12 来年度に向けての改善方策案  | 総合評価<br>A (B) C D  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善については、今後も現在の取り組みを継続し、すべての教員が授業改善に取り組むとともに、アクティブ・ラーニングの研究も進めながら、生徒の学力・評価を上げることを目指したい。</li> <li>・業務は、岐阜県教職員コンプライアンス向上委員会の提言を受け、さらに効率化していきたい。</li> <li>・地域に開かれた学校としての活動を充実させ、PRにも努めていきたい。</li> </ul>                 |  |  |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

### 【意見・要望・評価等】

様々なアイデアによる授業や行事の改革、次年度のカリキュラム、生徒のボランティア活動等に対し高く評価する。また、教職員の働き方改革についても積極的に肯定できるものである。地域との連携については、高齢化が進む地域の実情の中で高校生の活力を期待している。

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校

学校番号

6

## I 自己評価

|  |  |  |
|--|--|--|
| 1 学校教育目標   | <p>「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br/>                 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br/>                 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br/>                 (3) 「命」を大切に作る心、人への思いやりの心を育成する。</p>  |  |
| 2 評価する領域・分野  | 教務   |  |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <p>学習指導に関する生徒の評価は、4項目すべてについて、昨年度より良い評価の割合が上昇した。特に習熟度別授業や少人数授業に対しては、肯定的評価が75.6%と昨年度に比較して15.8%上昇した。これは、一昨年度からは27.8%の上昇率であり、この2年間で学校全体の授業改善が進められてきた結果と捉えることができる。ただし、総合的な学習の時間については、有意義であったかかどうかについて、「あまり当てはまらない」と「まったく当てはまらない」を合わせて28.1%と多く、内容そのものを抜本的に見直す必要がある。特に、来年度からは名称が「総合的な探究の時間」となり、その内容の取扱いも変更されることから、生徒にとってより有意義な学習活動にしていなければならない。</p> |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の改善を進めることで生徒の学習への興味・関心を高め、進路目標達成を実現する体制を構築する。</li> <li>・生徒が主体的に活動し、学力を向上させられる授業とする。</li> <li>・習熟度別・少人数授業に対する、生徒の肯定的評価を一層高める。</li> <li>・家庭学習時間の増加を図る。</li> </ul>  |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会、総合的な学習委員会</li> <li>・学習指導委員会</li> </ul>   |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |  |
| <p>(1) 教育課程委員会を定期的に開催し、研究と協議を行う。<br/>                 (2) 授業力の向上を目指すとともに、習熟度別・少人数授業の効果的な運用方法や指導方法の研究に努める。<br/>                 (3) 生徒の家庭学習時間調査を定期的実施し結果の分析をもとに、家庭学習時間を増加させるための研究と実践を進める。</p>   | <p>(1) 特色ある単位制に向けた教育課程の編成ができたか。<br/>                 (2) 研究授業(各教科とも年1回)、公開授業週間(年1回)、授業アンケート(年1回実施、生徒による授業評価)を通じて、アクティブラーニングを意識した授業改善を図ることができたか。<br/>                 (3) 家庭での学習に意欲的に取り組むことができたか。</p>   |  |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点   | 10 評価  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会では、主に単位制に向けた教育課程作成のための研究と協議を行った。</li> <li>・研究授業。公開授業を通してグループ学習・ペア学習など生徒の主体的な活動を重視する授業が増えた。</li> <li>・生徒による授業アンケートの結果を踏まえながら、授業改善の研究を進めた。特に言語活動を組み込むことを重視した。</li> <li>・家庭学習時間調査の改善を図った。</li> </ul> | <p>①単位制に向けた特色ある教育課程を編成できたか。<br/>                 ②研究授業・公開授業・各授業のアンケート結果等を踏まえた授業改善はできたか。<br/>                 ③全体として家庭学習時間を平日平均90分以上確保できたか。</p>   | <p>A (B) C D<br/>                 (A) B C D<br/>                 A B (C) D</p> |

|   |   |                                 |
|---|---|---------------------------------|
| <p>11<br/>成<br/>果<br/>・<br/>課<br/>題</p>   | <p>○教育課程委員会を3回実施し、平成31年度から始まる単位制のカリキュラムについて検討し、魅力ある単位制普通科高校を目指して検討を重ねた。特に、各教科の学校設定科目のみならず、高大連携科目を本校の特色のある科目として立ち上げ、生徒が自分の進路希望に合わせて科目選択を行い、主体的に学習に取り組めるようにした。</p> <p>○生徒が実施した授業アンケートでは、ほとんどの項目で肯定的評価70%以上を達成した。</p> <p>○授業改善は、研究授業や教科の枠を超えた授業参観、教科会等を通じて授業の改善に取り組んだ。</p> <p>▲新年度からはじまる教育課程の学校設定科目については、生徒のニーズや興味関心のある講座、進路実現のために効果のある講座について、さらに検討を進めていく。</p> <p>▲家庭学習時間については、1年生は4月→11月の評価はB→Cと推移し、2年についてはC→Cであった。(平日の学習時間90分以上の割合 A:60%以上、B:50%以上 C:30%以上)各教科から適切な課題を提示及びその見届けを行うとともに、総合的な学習の時間におけるキャリア教育等を通じて学習に対するモチベーションを高め、家庭学習に主体的に取り組むようにする必要がある。</p> | <p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p> |
| <p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の科目に加え、単位制で新たに設定された科目が生徒にとって魅力あるものとなるために、さらに生徒主体の活動を重視した授業計画を作成していく必要がある。そのために、これまで取り組んできた研究授業や公開授業をさらに充実させるとともに、他校の授業視察やアクティブラーニングに関する研修会等を積極的に実施する。</li> <li>・総合的な探究の時間においては、学力向上のために学び方そのものについての取り組みや、進路目標を実現するための調べ学習や外部講師による講演会、地域学習や国際理解など幅広いテーマについて生徒が主体となって深い学びが可能となるような指導計画を策定する。</li> <li>・家庭学習については、教科が中心になって、生徒の学力状況に応じた課題の提示や見届けを行い、習慣化するようにする。</li> </ul> |   |                                 |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|   |
|---|
| <p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善については、学校全体でアクティブラーニングを推進してきた成果がアンケート結果にも表れたものと思われる。今後も、教師から生徒への一方向の授業ではなく、生徒が主体的に活動する場面を多く取り入れた授業づくりをしてほしい。</li> <li>・単位制への期待は大きい。生徒が自分の進路や興味関心に基づき科目選択ができることは素晴らしいことである。</li> <li>・総合的な学習の時間については、キャリア教育を中心とした学びが多いが、地域連携活動や国際理解教育などの内容を充実させていく必要がある。</li> </ul> |
|---|

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

|   |   |  |
|---|---|--|
| 1 学校教育目標  | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。  |  |
| 2 評価する領域・分野   | ◇進路指導   |  |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | ・個別の進路指導、進路情報の提供について概ね満足されている。引き続き、適切な進路指導や質の高い指導を研究・推進していく。<br>・総合的な学習の時間を活用しキャリア教育の充実と推進に努める。   |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | ・キャリア教育を段階的に進め、社会で自己を生かすための主体的な努力ができる人材を育てる。<br>・卒業時に進路目標が実現できるよう学力の定着と伸長を目指す。  |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・総合的な学習委員会 ・教育課程委員会 ・進路指導部会<br>・3年学年会   |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |  |
| (1) キャリア教育の計画及び実践（総合的な学習の時間を中心に展開）<br>(2) 学力の定着（補習、外部模試、通信衛星講座）<br>(3) 進路情報の提供（進路便り、各種ガイダンス）<br>(4) 進路相談の充実と支援体制の強化   | (1) 生徒一人一人の将来を見据えた進路指導の充実と生徒の満足度の向上。<br>(2) 学力の向上と進路目標の実現。<br>(3) 時期や内容を考慮した効果的な進路路便りの配布と各種ガイダンスの実施。<br>(4) 進路指導に対する肯定的評価の向上。   |  |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点  | 10 評価                                    |
| ・1年生は外部講師等を活用した職業及び文理選択研究、2年生は学部学科等の研究、3年生は入試対策など進路目標の実現のための方策を中心に実施する。<br>・補習、外部模試や通信衛星講座等を利用した学力向上に努める。<br>・定期的に進路便りを発行し、また、各種ガイダンスを充実させて、進路学習に資する。<br>・学年会との連携を密にし、生徒情報の共有と外部情報の適切な提供に努める。 | ①進路学習が有効に行われ、進路目標が実現できたか。<br>②学力の向上に役立ったか。<br>③進路選択に資することができたか。<br>④適切に進路指導を行うことができたか。  | Ⓐ B C D<br>A Ⓑ C D<br>A Ⓑ C D<br>Ⓐ B C D |
| 11 成果・課題  | ○今年度の夏期に実施された自校評価アンケートによると、進路指導の満足度は生徒・保護者とも肯定的評価が70%以上と概ね評価された。<br>○3年生のAO・推薦入試の受験希望者の増加により、面接・小論文指導に対し、早期かつ全校体制で取り組むことができた。<br>○1年生の進学フェスタ、2年生の大学模擬授業や学部学科に関する進路講演会やインターンシップ、3年生の進学講演会や各種ガイダンスなど、それぞれの学年のニーズに合致したキャリア教育の方法を展開できた。<br>○3年学年会との連携を十分に行い、詳細な打ち合わせを重ねることによって複雑な入試制度に対応することができた。<br>▲「新テスト」実施を含む大学入試改革が目前に迫る中、職員研修会の実施や2年生による「プレテスト」参加などを行ったが、今後、さらに充実していく必要がある。 |  |
| 12 来年度に向けての改善方策案  | ・AO・推薦入試希望者の増加に対応するため、入試制度の周知徹底や面接・小論文対策の充実を引き続き図っていく。<br>・6月に再度外部講師を迎え「新テスト」の内容や実施日程に関する職員研修会を実施する。  |  |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

【意見・要望・評価等】 新テストをはじめとする大学入試改革への対応を十分に進めてほしい。

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

|   |  |  |
|---|--|--|
| 1 学校教育目標  | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。   |  |
| 2 評価する領域・分野   | ◇生徒指導・教育相談   |  |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー指導・服装頭髪指導は、生徒保護者とも肯定的評価が多い。<br/>*マナー指導：生徒84.3%、保護者72.4% *服装頭髪指導：生徒88.0%、保護者83.6%</li> <li>・いじめの指導については、昨年度と比べ肯定的評価が大きく増加しているものの実際に特別指導に該当した事案もあり、今後の課題である。また、いじめ・差別については「わからない」が減少したものの引き続き一定数あり、いじめ・差別を絶対に許さないという姿勢を今以上にしっかりと示す必要がある。</li> <li>*いじめの指導「肯定的」：生徒70.2%→77.3% 生徒「わからない」19.8%→12.9%<br/>いじめの指導「肯定的」：保護者51.1%→55.5% 保護者「わからない」37.9%→35.2%</li> </ul> |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇朝の登校指導（挨拶・身だしなみ・交通安全）の継続的実施</li> <li>◇遅刻、身だしなみ、携帯電話・スマートフォンの保管による基本的な生活習慣の確立</li> <li>◇MSリーダーズによる交通安全・非行防止・情報モラル向上の啓発</li> <li>◇教育相談・学年会・保健室と連携した学校不適応生徒への支援</li> <li>◇道徳教育の充実による自己有用感の醸成</li> </ul>   |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・クラス担任・学年会・生徒指導・教育相談の緊密な連携   |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 朝の校門・昇降口での挨拶・身だしなみ・交通安全指導（含MSリーダーズ）</li> <li>(2) 全校一斉による身だしなみ指導</li> <li>(3) 問題行動を起こした生徒への指導</li> <li>(4) 教育相談・学年会・保健室・HR担任との緊密な連携と支援計画づくり</li> <li>(5) HKTゆいまーるプロジェクトの推進</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 昨年度までの統計比較<br/>〔問題行動・遅刻・交通事故・身だしなみ指導の減少率〕<br/>20%以上：A 0%以上：B -10%以上：C -10%未満：D</li> <li>(2) 全校体制による教育相談活動の充実<br/>〔いじめ対策や人権についての生徒・保護者の指標〕<br/>60%以上：A 50%以上：B 40%以上：C 30%未満：D</li> </ul>  |  |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導・挨拶指導・マナー指導</li> <li>・交通安全委員会による交通安全活動</li> <li>・生活委員会によるポスター制作による啓発</li> <li>・携帯電話・スマートフォンの保管指導</li> <li>・教室出入り口の施錠</li> <li>・いじめ迷惑調査の結果分析および課題への取組</li> <li>・学校不適応生徒への支援</li> <li>・発達障がい等の問題を抱える生徒への支援</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①問題行動が減少したか。</li> <li>②交通事故件数が減少したか。</li> <li>③1日当たりの平均遅刻人数は減少したか。</li> <li>④いじめ問題や人権に対する指導は効果的であったか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> </ul> |
| 11 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○MSリーダーズが交通安全活動に主体的に取り組んだ結果、交通事故件数を12月末現在で17件と昨年の18件より減少させることができた。</li> <li>○教室出入り口の施錠を徹底することにより、今年度は盗難事案を12月末現在で0件にすることができた。</li> <li>○HKTゆいまーるプロジェクトを推進し、ボランティア参加者を増加できた。</li> <li>▲情報モラル違反事案が多く発生しており、今後一層の意識向上が課題である。</li> </ul>  |  |
| 12 来年度に向けての改善方策案  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全県的にMSリーダーズの活動が活発になるに従い、様々な問題が減少したことを踏まえ、本校でも問題行動の減少、いじめの撲滅、情報モラルの向上等を図るため、生徒（MSリーダーズ等）が主体となった啓発活動を増やしていく。また、ゆいまーるプロジェクトへの参加者を一層増やし、自己有用感を高められるよう取り組む。</li> </ul>  |  |
| 11 総合評価   |  |  |
| A <input checked="" type="radio"/> B C D  |  |  |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>【意見・要望・評価等】</li> <li>・交通事故が17件と意外に多い印象であるため、協力できることがあれば協力したい。</li> <li>・生徒指導面でもあまり気になったことがなく、手順を踏んで上手に指導されている。</li> </ul> |
|--|

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

|   |   |                                     |
|---|---|-------------------------------------|
| 1 学校教育目標  | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。  |                                     |
| 2 評価する領域・分野   | ◇特別活動   |                                     |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学校行事に対しては、生徒（62.8%）、保護者（64.2%）がよい評価をしている。前年度よりは約2%減少したが、平成28年度とはほぼ同じで基本的な評価は変化していない。</li> <li>・本校の部活動に対しては、生徒（74.6%）、保護者（69.7%）と高い評価を受けている。</li> <li>・本校のボランティア活動に対する評価は、高く評価する割合が生徒が約20%増加（69.3%）し、ゆいまーるプロジェクトの立ち上げが有効であったと考えられる。保護者（44.1%）については調査時には周知できていなかったと考えられる。</li> </ul> |                                     |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と学校行事の一層の活性化を図ることにより、生徒の目的意識を高めると共に、主体的に取り組む姿勢を育成する。</li> <li>・ボランティア活動に積極的に参加することにより、社会の一員としての自覚を深める。</li> </ul>  |                                     |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・生徒会執行部，各種委員会，部顧問会議   |                                     |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |                                     |
| (1) 学校行事の企画内容の見直しと生徒会における役割の明確化。<br>(2) ボランティア活動に対する意識の向上と学校内でのボランティア活動への積極的な参加。  | (1) 学校行事に対する生徒と保護者、及び教員及び地域、学校関係者による満足度。<br>(2) 部活動に対する生徒と保護者、及び教員及び地域・学校関係者による満足度。<br>(3) ボランティア活動に対する生徒と保護者、及び教員及び地域、学校関係者による満足度。   |                                     |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点  | 10 評価                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・北翔祭など学校行事で極力生徒の意見を反映させる企画とする。</li> <li>・部活動の成績を掲示するなど、部活動の充実をはかるようにする。</li> <li>・従来の活動以外に新しいボランティア活動を実施する。</li> </ul> | ①生徒が興味を持ち、積極的に取り組むことができたか。<br>②部活動に対する取り組みが積極的になったか。<br>③生徒が積極的に参加・協力できたか。  | (A) B C D<br>A (B) C D<br>(A) B C D |
| 11 成果課題   | ○新たな学校行事として、「ゆいまーる活動発表会」を実施した。企画段階から生徒は積極的に取り組むことができた。<br>▲各種委員会活動においても、生徒の自主的・主体的な企画・運営をめざしたがまだまだ取り組めていないところがある。<br>○スポーツフェスティバルにおいて、種目数を増やし、内容の充実をはかった。<br>▲地域と連携したボランティア活動の開発と参加方法の検討が課題である。   |                                     |
| 12 来年度に向けての改善方策案  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事の企画段階から生徒会執行部等に関わらせ、より一層企画・運営能力を高める。</li> <li>・ボランティア活動への参加登録制度などを検討する。</li> </ul>   |                                     |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|   |
|---|
| 【意見・要望・評価等】   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆいまーるプロジェクトは大変評価できる。</li> <li>・生徒会活動はアイデアや創造性を発揮できる。</li> <li>・地域連携活動により多くの生徒が参加してほしい。</li> </ul> |

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

|   |  |                                   |
|---|--|-----------------------------------|
| 1 学校教育目標  | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。   |                                   |
| 2 評価する領域・分野   | ◇保健厚生  |                                   |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | ・安全指導、健康管理に関する、地震や台風への対応・対策マニュアルの徹底についての項目において、保護者、生徒の肯定的評価の割合が昨年度より上昇した。特に地震や台風への対応の項目が、保護者の肯定的評価86.1%と昨年より5.2%も上昇した。これは非常変災時予行訓練などが定着してきていることが考えられる。安全・衛生面の配慮と指導の項目については、生徒の評価が-1.4%と少し下がったものの、肯定的評価は82.3%と高い。これは日頃の丁寧な対応が評価されているものと思われる。また、保護者の肯定的評価が-5.1%と下がったが、わからないが20.5%の増加によるところが大きい。              |                                   |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | ◇健康・安全で活力ある基本的習慣を確立させ、健やかな身体を育成する。<br>◇学習環境の美化・整備を通じて、環境への視点を育成する。   |                                   |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・学校保健安全委員会（アレルギー対策委員会）・防災委員会<br>・保健委員会・環境委員会・美化委員会   |                                   |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |                                   |
| (1) 健康診断後の事後指導<br>(2) 安全点検・校内美化活動の推進<br>(3) 命を守る訓練、津波防災の日<br>非常変災時における帰宅確認予行  | (1) 健康診断後の医療機関への受診率 <small>〔生徒の安全・衛生面に対するアンケートにおける保護者の肯定的回答率80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D〕</small><br>(2) 安全点検の実施とゴミ処理量の減少 <small>〔学習環境面での施設・設備の充実についてのアンケートにおける保護者の肯定的回答率80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D〕</small><br>(3) 防災避難訓練の充実 <small>〔緊急災害時の対応についてのアンケートにおける保護者の肯定的回答率80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D〕</small> |                                   |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点   | 10 評価                             |
| ・各種健康診断結果をもとに、事後指導を徹底した。<br>・定期的な安全点検の実施及び美化委員会を中心とした校内美化活動の充実。また、環境委員会による、ごみの減量化、リサイクルの推進。<br>・命を守る訓練・津波防災の日の実施。非常変災時における対応。 | ①健康診断後の医療機関への受診率は視力89.9%、眼科100%<br>内科及び運動器100%、歯科79.7%、全体では88.1%で他校に比べ非常に高い。<br>②安全や衛生面への配慮 68.4%<br>③地震や台風への対応 86.1%  | Ⓐ B C D<br><br>A Ⓑ C D<br>Ⓐ B C D |
| 11 成果・課題  | ○1年生に対して合格説明会で入学前に視力検査と歯科検診を勧めた。視力検査は中学時C・D判定の者、歯科検診は全員が受信対象。受診対象者を明確にして説明することにより、歯科においては約8割近く受診した。入学前の指導は意識付けができるため、今後も継続していきたい。<br>○地震や台風への対応の項目で保護者の肯定的評価が上昇した。さらに非常変災時における帰宅確認予行などの訓練の充実を図る。<br>▲安全や衛生面への配慮の項目でわからないが多いため、保護者対応をしっかりと行い、理解を促す。   |                                   |
| 12 来年度に向けての改善方策案  | ・健康診断未受診者の受診率を向上させるための指導を徹底する。<br>・安全点検や日常点検の実施と清掃活動の推進。<br>・非常変災時における帰宅確認予行などの訓練方法の工夫。  |                                   |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|                                |
|--------------------------------|
| 【意見・要望・評価等】                    |
| ・定期検診後の継続的な受診勧告は、是非このまま続けてほしい。 |

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

I 自己評価

|  |  |  |
|--|--|--|
| 1 学校教育目標   | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。   |  |
| 2 評価する領域・分野  | ◇ 渉外広報   |  |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者大学見学会：日程や訪問する大学などに関するいろいろな要望がある。</li> <li>・PTA研修会：入試や就職など生徒の実態にあった話をしてほしいという意見が多くあった。</li> <li>・PTA総会：多くの保護者に参加してもらえよう工夫をしてほしいとの声がある。</li> </ul>  |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「PTAだより」「学校案内」の紙面の改善・充実をはかる。</li> <li>◇ 国際理解に関する教育を推進する。</li> <li>◇ PTA各種行事の内容の充実を図るとともに、参加率を高める。</li> </ul>  |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | ・企画運営委員会、PTA運営委員会、学年会  |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「PTAだより」「学校案内」の内容の検討・充実を図る。</li> <li>(2) 「国際理解プログラム」をより充実したものにする。</li> <li>(3) ロックハンプトン高校を訪問するにあたり研修内容の充実と生徒や保護者への配信を積極的に行う。</li> <li>(4) 各種行事の参加者を増やすために、保護者の意見を反映させ行事の充実を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「PTAだより」「学校案内」の紙面の充実</li> <li>(2) 「国際プログラム」の内容の検討と充実</li> <li>(3) 「PTA総会」「大学見学会」「研修会」の内容の充実と参加率の増加</li> </ul> <p>総会参加率 [25%以上A 20%以上B 15%以上C 15%未満D]<br/>                 大学見学参加率 [10%以上A 8%以上B 4%以上C 4%未満D]<br/>                 PTA研修会は40周年記念事業のため、実施せず</p> |  |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点   | 10 評価  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAだより」「学校案内」の内容検討、内容の充実、デザインの改善。</li> <li>・「国際理解プログラム」の内容をしっかりと検討して、充実したものにする。</li> <li>・PTA各種行事への保護者の参加率をできるだけ高めるため、保護者が関心をもっているような講演や内容を企画する。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「PTA便り」「学校案内」は前年より紙面は充実したか</li> <li>② 国際理解プログラムは、生徒にとって充実したものであったか。</li> <li>③ PTA各種行事への参加率が目標値に達したか。また内容的に満足のものがあったか。</li> </ul>   | <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A B (C) D</p> |
| 11 成果・課題   | ▲参加率は、総会（15%；前年22%）、大学見学会（9%；前年9%）であった。<br>○大学見学会では「大学を知る良い機会であった」「次年度も参加したい」という感想が多かったことは成果であると考える。<br>○国際理解プログラムに意欲的に取り組んでいる生徒が多くみられ、その感想も極めて肯定的なものが多かった。<br>○北翔祭でのダンゴ販売等では、保護者同士の交流が深まり好評であった。  |  |
| 12 来年度に向けての改善方策案<br>PTA行事に関しては、参加する保護者からの意見を取り入れ、多くの保護者に参加していただけるものにしていきたい。また、行事の案内を工夫して保護者の参加を促したい。今後も、PTA活動に多くの保護者が積極的にかかわっていただけるようにしていきたい。  |  |  |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|   |
|---|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <p>総合的な学習の時間を活用して年数回国際交流を行っているが、さらに生徒が主体的に関わることが肝要である。</p> |
|---|



# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

|  |   |         |                 |
|--|---|---------|-----------------|
| 1 学校教育目標   | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。  |         |                 |
| 2 評価する領域・分野  | ◇図書視聴覚  |         |                 |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝の10分間読書」についてのアンケート結果では、肯定的評価は保護者75.3%、生徒80.9%でありともに高かった。</li> <li>・図書館が利用しやすいと答えた生徒が71.6%おり、昨年度よりも3ポイント増加した。</li> </ul>   |         |                 |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇教科・HRとの連携を図り、図書館利用を促す。</li> <li>◇図書館環境の整備・充実に努め、読書に対する興味関心を高める。</li> <li>◇芸術鑑賞会を充実したものにするために、協議・検討を行う。</li> </ul>   |         |                 |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書視聴覚委員会（年3回）</li> <li>・生徒会図書委員会</li> </ul>   |         |                 |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |         |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 図書館利用促進のための広報活動。</li> <li>(2) 図書館における授業・LHR活動の準備。</li> <li>(3) 朝の10分間読書の推進。</li> <li>(4) 芸術鑑賞会についての広報活動。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 図書の貸出冊数や来館者数を昨年度と比較。</li> <li>(2) 授業・LHRでの図書館利用回数を昨年度と比較。</li> <li>(3) 生徒へのアンケート。</li> <li>(4) 生徒へのアンケート。</li> </ul>   |         |                 |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点  | 10 評価   |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館だよりに、教員からのお薦め本を掲載。校内読書感想文・小論文コンクールの実施。文化祭への参加。そのとき話題になっている本の展示。</li> <li>・POP作りをした後、その本とともに展示。</li> <li>・年間を通して「朝の10分間読書」を正副担任の指導のもと実施。</li> <li>・芸術鑑賞会（11月）の実施。</li> </ul> | ①図書貸出冊数と生徒の利用状況。  | Ⓐ B C D |                 |
|  | ②LHRにおける図書館利用回数。  | A Ⓑ C D |                 |
|  | ③アンケート結果。   | A Ⓑ C D |                 |
|  | ④アンケート結果と、当日の様子。  | Ⓐ B C D |                 |
| 11 成果・課題   | ○図書館では、生徒の目を引くような本のディスプレイを行ってきた。話題になったり、映画化されたりした本などタイムリーな企画になるよう年間を通して提供した。図書館だよりでは新着本の紹介だけでなく、図書館に興味をもって来ることができるよう教員お薦めの本を記事とした。<br>○授業での調べ学習、LHRにおけるPOP作りなど、昨年度に比べ図書館の利用が増えた。<br>▲朝の10分間読書のアンケートから、肯定的な評価をした生徒の割合は高い一方で、興味をもてない生徒が昨年度よりやや増加した。 |         | 総合評価<br>A Ⓑ C D |
| 12 来年度に向けての改善方策案   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が興味・関心をもつような企画ができるよう、新しい情報の収集に努め、発信していきたい。今年度文化祭においてワークショップ形式で葉とブックカバー作りが好評だったので、今後も図書館に親しみをもつ行事を企画したい。</li> <li>・朝の10分間読書に活用する学級文庫の本を充実させ、少しでも興味をもたせることができるように働きかけたい。</li> </ul>                       |         |                 |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|  |
|--|
| 【意見・要望・評価等】  |
| ・朝の10分間読書は生徒たちの成長に意義のある活動だと思われる。記憶に残るような本を紹介して欲しい。 |

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| 1 学校教育目標  | 「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。<br>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。<br>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。<br>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。  |  |  |
| 2 評価する領域・分野   | ◇研究推進   |  |  |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | ・アンケートの項目には該当なし。  |  |  |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | (1) 単位制の教育課程編成<br>(2) 適切なキャリア教育の企画・運営<br>(3) 本校の魅力の発信   |  |  |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制  | ・教育課程委員会<br>・LHR・総合的な学習委員会  |  |  |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組   | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標   |  |  |
| (1) 新しい教育課程の編成<br>(2) フィールド選択や科目選択の指導の確立<br>(3) 学校説明会における本校の魅力の発信                                     | (1) 教育課程表<br>(2) 科目選択の手引き<br>(3) 中学生の進路希望状況   |  |  |
| 8 取組状況・実践内容等  | 9 評価視点  | 10 評価  |  |
| ・5つのフィールドにおける単位制の教育課程を編成した。<br>・ベースとなる時間割をつくり、先生方に二度、科目選択を体験してもらった。<br>・中学生と保護者対象に、パワーポイントを用いて説明を行った。 | ① 本校の教育目標に沿ったものか。<br>② わかりやすいものであるか。<br>③ 本校を希望する生徒が増えているか。   | <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D<br><input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D<br><input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D |  |
| 11 成果<br>課題   | <input type="radio"/> 進学型の普通科単位制高校として、進路目標に応じた科目選択が可能となる教育課程が編成できた。また、高大連携の科目など、本校の特長となる複数の学校設定科目を開講する準備ができた。<br><input type="radio"/> 中学3年生対象の進路希望調査(1月)によると、本校を希望する生徒は昨年同時期の45%増となり、広報活動が一定の成果が上げられたと考えられる。<br><input type="radio"/> 総合的な探究の時間における「探究活動」に関して、生徒のレベルにあった教材を選定することができた。<br><input type="radio"/> 生徒が自己管理するための手帳を試行、ポートフォリオノートとともに導入することが決まった。<br><input checked="" type="radio"/> 科目選択の指導方法については、選択のしかたが複雑なので説明が難しく、具体的な運用にはまだ改善が必要と思われる。 |  | 総合評価<br><input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D |
| 12 来年度に向けての改善方策案  | ・科目選択の指導法は、先生方からの意見を集約し、改善していく。<br>・「探究活動」については、今後、地域との連携のしかたを調査し、模索していく必要がある。<br>・手帳については、生徒がうまく活用し、自己の成長とポートフォリオ作成につなげるために、他校の例を調査し、取り入れていく。  |  |  |

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月7日

|   |
|---|
| <b>【意見・要望・評価等】</b><br>・地域との連携を推進することはすばらしい。できるだけ多くの生徒が参加することが大切である。<br>・地域連携を学校で考えてもらえる点は感謝したい。若い人が成長するよう協力したい。学校に負担がかからない方法を考えたい。<br>・単位制への期待もしている。個々の生徒が、それぞれの興味・関心に基づき授業を選択できるのはすばらしい。 |
|---|